

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290900677		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム船橋坪井東		
所在地	千葉県船橋市坪井東5-23-6		
自己評価作成日	令和2年11月15日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは外に出る機会を少しでも多く取り、いつまでもご自分の足で歩けるようにと毎日の散歩を徹底して行っております。近くには大きな公園もあり、子供たちや大人が大勢いらっしゃり地域の方々とのコミュニケーションの場となり私たちも一緒に参加させて頂いております。散歩は全員が参加出来るよう曜日毎に参加を決めております。また、施設に入居していても当たり前前の生活が送れるようにと毎月の外出レクをスタッフが担当となり企画し入居者様が楽しむことが出来るよう活動しております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15
訪問調査日	令和2年11月30日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・法人の運営理念1.我々はその人らしい快適で穏やかなシルバーライフを常にサポートします。2.我々は心を込めた親切なサービスに努めその心を磨き続けます。3.我々は様々な機会を通して地域の人々とのふれ合いを大切にします。と、事業所独自の理念1.私達は「自分の意志で決定し行動する」自己決定の支援に努めます。2.私達は残存能力を活かした支援に努めます。を朝礼時や会議の時に唱和し、日頃から認知症という病気について理解することに力を入れ、気になる出来事の対応については申し送り時に話し合っている。 ・在宅支援センターと連携して公民館で100人近い地域住民等の参加を頂き、認知症予防説明会を開催した。 ・現在の「ホーム便り」を、10月から毎月千葉第4エリアの5つのホームからスタッフが集まり「お便り委員会」を開催し、来年から統一様式に変更する予定である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議や朝礼、夕礼の際には必ず運営理念の唱和を行い全スタッフに理念の共有、実践しております。	法人の3つの理念と事業所独自の2つの理念を、朝礼時や会議の際にも唱和している。日頃から、認知症という病気について理解することに力を入れ、気になる出来事の対応については、申し送り時に話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	社会福祉協議会や在宅支援センターと協力し、地域の夏祭りや高齢者に向けた認知症予防説明会などを地域で開催しております。	2月に在宅支援センターと連携して公民館で、100人近い地域住民等の参加を頂き認知症予防説明会を開催した後は、コロナ禍の為に地域のイベント等が総て中止になってしまった。現在は、地域住民との繋がりは散歩時のあいさつ程度である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	高齢者に向けた認知症予防説明会の開催を行う予定です。また、認知症サポーター養成講座などの取り組みも積極的に行う予定です。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度の運営推進会議を開催し、ご家族様・行政との連携を通じてサービス向上に活かしております。	今年は一室に会しての会議は市の要請により中止している。内部で会議を行い、活動状況報告、職員状況、事故報告等を家族、民生委員や在宅支援センターを通して行政へ報告している。	地域の情報収集のためにも町会に加入し、運営推進会議に町会長等に参加してもらい、民生委員にも参加してもらうことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	指導監査課への必要連絡を都度行い、在宅支援センターとの連携を通じ地域での取り組みの参加を行っている。	今年コロナ感染予防ということもあり、役所へは最小限の訪問に留め、必要に応じて電話で対応している。指導監査課へのコロナ関係の相談等や利用者アンケートでの、介護保険が使えず費用がかさみ考慮して欲しいとの意見等に対して、介護保険課へ相談したりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に一度の研修・自己評価を行い、身体拘束廃止委員会の開催を行っている。	3ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を開催し、例えば、「入居者に対してイライラしませんか」にチェックが有った場合に、人間の感情でイライラは当然あるが、何故イライラしたか、どの様な場合であったか等の原因を全員が納得するまで話し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	定期的な研修やチェックシートを使い日々のケアを務めております。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	定期的な研修の他に、現在入居中の利用者様の成年後見人より話を聞くなどしております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書はすべてを読み上げて上で納得して頂き署名をお願い致しております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的なケアプランの説明、面会時日々のご様子の説明、必要時カンファレンスを行いご家族様からのご要望等を支援に活かしております。	現在は、ホーム長や居室担当者からのコメントや利用者の活動写真等を載せた「ホーム便り」を毎月送付しているが、郵便物が多いのでメール等の方法を考えて欲しい等の意見もあり、10月から毎月千葉第4エリアの5つのホームからスタッフが集まり「お便り委員会」を開催し、来年から統一様式に変更する予定である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や個別面談を通じてスタッフからの様々な意見や提案を反映するよう対応している。	職員の意見を聞く場としては、毎月行う全体会議やユニット会議がある。例えば、介助に対して上手くいかないの別介助をしたらどうかとか、レク等の意見でコロナ禍で外出が出来なかったり、夏祭りを中止したのでバーベキューや花火を行い利用者に喜んでもらった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフトを組み、仕事だけではなく人間観やプライベートな悩みなども相談できるような環境作りに努めております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修のみならず、外部の研修にも参加を呼び掛けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	船橋市内のグループホーム協議会に登録し交流を図っております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居当初は他の方以上に話す機会を多く取り、1日でも早く不安を取り除けるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族会を開催し、他のご家族とも交流できる機会を設けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人と話す時間を多く取り本人から聞いた話をご家族様に確認しております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護現場ではなく、一緒に生活しているという家庭的な環境作りに努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	小さなことでもご家族と相談しながら進めております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との関係が今まで通り行えるようにと、ご家族様と相談し外出・外泊などを勧めている。 また、レクなどイベント時も積極的にお誘いしている。	コロナ禍ではあるが、面会禁止はせず相談室で面会をしていただいている。毎日面会に来ていた家族は週2～3日に減ったが、サークルの友人の訪れは有った。家族との外食は自粛して頂いたが、ドライブや墓参り等には協力して頂いた。ホームとしての外出レクは総て中止し、近所の散歩に止まった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同で行えるレクやスタッフを交えての会話を多く取るように努めております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、必要な事やお困りごとがあった際相談、支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族様より生活歴を聞き参考にしている。入居者様の趣味、特技等を活かした生活ができるよう対応している。	利用者情報は、入所申し込み時や入所時に利用者及び家族と面談して聞き取り、フェイスシートやアセスメントシートに記載して、それまでの利用者の生活について把握している。また、施設で生活する上での意向を確認して趣味や特技を活かした生活ができるようにサービス計画を立てて支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	会話の中から既往歴を聞いたり、ご家族様に確認しながらケアに生かしております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事は可能な限りご自身で行って頂き、これまでの生活リズムを変えない様に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフや家族だけではなく、医師や看護師、薬剤師など様々な関係者からご意見を頂き作成しております。	介護計画は、各ユニットの計画作成担当者が原案を作成し、ユニット会議に諮って作成される。作成された計画案は家族に提示して了解を得てから実施に至る。介護計画は、毎月のモニタリングで実施状況及び利用者の状況が確認され、半年ごとに見直されている。変化があるときは随時見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの記録の他に会話の中で聞いた様々な情報も共有できるように記録しております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ・ご家族様と相談し、常に新しい試みを模索し、挑戦しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に利用させて頂いたり、地域のイベントには毎回参加させて頂いております。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関と連携し、緊急時でも受け入れ可能な病院をいくつか確保しております。	利用者は、協力医療機関の医師に2週間に1回往診で診てもらっている。また、週1回訪問の訪問看護師の看護がある。また、週1回の歯科医師の往診と月1回の理学療法士の訪問がある。それら専門職と施設の職員で利用者の健康を管理している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間、看護師と連絡が取れる体制になっており、常に情報の共有に努めております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院可能な病院と協力医療連携を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時や必要時の際ご家族様とのカンファレンスを行い方向性、支援方法等を確認している。	入所時に重要事項説明書と一緒に施設の「重度化した場合の対応にかかる指針」及び「看取り介護にかかる指針」を書面で説明している。施設は、医師や看護師と連携のもと看取り介護まで行っており、カンファレンスを繰り返して利用者及び家族の納得のいく看取りの実践を行っていた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	定期的な研修の他に、消防署に依頼し救命講習を行っております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年2回の消防訓練を開催し、全職員に避難・誘導方法の共有を行っている。	今年は7月と9月に日中対応と夜間対応の避難訓練を行った。、コロナ禍の状況のもとで、消防署の参加はなかったが、マニュアルに沿って訓練ができた。近所の人の協力も得られない状況であるが、近くの老人施設の施設長に挨拶しており、何かの折には協力体制を図ろうと考えている。法人内の千葉第4エリアの各施設とは協力体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、扉を閉める・大きな声で排泄の有無を確認しない、入浴支援は出来る限り同性介助とするなど自尊心を傷つけない声掛けや対応に心掛けております。	法人内の研修や、施設内研修を年に5～6回行っており、人権や尊厳の保持について学んでいる。また、3か月に1回、「虐待・不適切ケアと身体拘束チェックシート」を用いて自己評価を行い、不適切な声掛けはしていないか等振り返りを行っている。施設長は、何か気が付いた折に助言をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ホーム独自の運営理念にて、自己決定の支援を掲げて実践しております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様を最優先に支援し、出来る限りおひとりおひとりの希望に添えるよう努めております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出掛ける際には洋服をご自分で選んでもらい、女性の方にはお化粧の支援も行っております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在調理済み食材を導入しているため、食事の盛り付け・洗いや片付け等を一緒に行うようにしている。	現在、食材を外部から調理済みのものを導入している。ご飯とみそ汁は施設内で作っている。また、おやつはスイーツデイを設け、施設内でお汁粉やどら焼き、ホットケーキなど利用者と一緒に作って楽しんでいる。食事の盛り付けや片付けは、やりたい人やできる人と一緒に行っている。少し前に駐車場でバーベキューを楽しんだ。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は細かく記録し、いつもと変わった様子はないか気を付けております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い口腔内の清潔に気を付けております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	おむつなどは出来る限り使用せずに、トイレでの排泄を支援しております。	日中は全員がトイレで排泄できるように支援している。介助するときも、声掛けして、できるだけ利用者本人ができるところはやってもらっている。排泄チェックシートを用いて、排便状況を観察して、便秘にならないように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬を使用せずに排泄できるように、日々の生活や食事・水分摂取などに工夫しております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る限りご自分のペースで入浴できるように努めております。	入浴は、週に2~3回入れるようにチェックシートに記載して支援している。浴槽は個室なので、必要時は2名介助体制で行っている。入浴を拒否する人には無理強いせず、時間を変えて誘ったり、日にちを変えて支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の生活や生活習慣などを考慮し、夜間ゆっくり休めるように工夫しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報や往診時の指示などをまとめたファイルを作成し、共有を行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おひとりおひとりに役割を持って頂けるように支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩の他に、季節ごとのイベントも多数行っております。	天気の良い日は、午前と午後に散歩に交代で散歩に出かけている。施設の周辺の歩道は広く安心して出かけられる。近くの公園やコンビニなどに歩行器利用の人には車いすを押ししてもらい、30分くらい散歩して楽しんでいる。家族との外出は、感染予防の注意喚起して、自由に行ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	散歩の途中での買い物や、本人希望の買い物などもご家族様と相談し出掛けております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の使用は申し出がございましたらその都度対応致しております。手紙、年賀状などの支援も毎年行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の照明、空調の調整の他にスタッフものんびりした雰囲気を作るように心掛けております。	施設の共用空間は、照明や空調を調整して過ごしやすいように配慮している。時間ごとに換気を行い、乾燥に注意して加湿器で湿度を調整している。今後、もう1台加湿器が必要かどうか検討している。掃除は、協力する利用者がいて、職員と一緒にやっている。共用空間は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同スペースのテーブルは決まった席を設けておらず、その都度、色々なかたと交流が持てる様に支援しております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具などを持ち込んでもらい、見慣れたものに囲まれ落ち着いた生活が出来るように心掛けております。	利用者それぞれの居室には、利用者がそれまで自宅で使っていた家具を持ち込み、その人の部屋らしく設えている。家族の協力のもとに各部屋には加湿器が備わっていた。それぞれの利用者が自分の居室が分かるように、部屋の前には行事の際に撮ったその人の写真をたくさん貼っていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示や居室の表札など見やすく表示し、歩行ルートには物を置かないように努めております。		